BEETHOVEN 200th ベートーヴェン 没後200年プロジェクト

ベートーヴェン没後200年

記念イヤー開幕！





シンフォニー

交響曲誕生への道のり

延原武春指揮 テレマン室内オーケストラ



フォルテピアノ
高田泰治

ヴァイオリン
浅井咲乃
（ソロコンサートマスター）

PROGRAM

C. P. E. バッハ：シンフォニア ハ長調 Wq. 182/3
C. P. E. Bach: Sinfonia in C major, Wq. 182/3 (H. 659)

ネーフェ：ピアノ協奏曲 ト長調
C. G. Neefe: Piano Concerto in G major

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第9番 ホ長調
L. v. Beethoven: Piano Sonata No. 9 in E major, op. 14-1

ベートーヴェン：ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス 第2番 ヘ長調
L. v. Beethoven: Romance for Violin and Orchestra No. 2 in F major, op. 50

ベートーヴェン：交響曲 第1番 ハ長調
L. v. Beethoven: Symphony No. 1 in C major, op. 21

2027.
3/26 金

2:00PM開演（1:30PM開場） A¥4,500 B¥3,500（税込／全席指定）

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ／JR西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）

一般発売 11/22 日

芸術文化センター チケットオフィス 0798-68-0255
（10:00AM – 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日）

インターネット予約 https://www.gcenter-hyogo.jp

※窓口での販売（残席がある場合）は11/23（月・祝）より

芸術文化センター会員 先行予約受付開始 11/20 金

兵庫県立芸術文化センター

関西から文化力 POWER OF CULTURE

※車いす席はお電話でのみ販売しております。 ※未就学児童はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

ベートーヴェン、その創作の原点へ。
没後200年に響く《交響曲第1番》

2027年3月26日、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770–1827）の没後200年を迎えます。

兵庫県立芸術文化センターでは、この歴史的な節目を記念し、この日を皮切りに、「ベートーヴェン・プロジェクト」を始動。ベートーヴェン作品を深く知り尽くした名手たちが集い、その不朽の名作の魅力を多彩な演奏でお届けします。

第1弾は、18世紀音楽演奏の第一人者・延原武春率いるテレマン室内オーケストラが登場します。

テレマン室内オーケストラは、45年前、世界で初めて、初演当時の編成とベートーヴェン自身が指定したテンポによる《交響曲第9番》の演奏を再現。さらに約20年前には、クラシカル楽器で作曲家の指示を忠実に反映したベートーヴェン交響曲全9曲の演奏に取り組むなど、革新的な活動を続けています。

プロジェクトの幕開けを飾る本公演のテーマは、「交響曲誕生への道のり」。ベートーヴェンが29歳で《交響曲第1番》を完成させるまでの歩みを、ゆかりの作品を通してたどります。恩師ネーフェのピアノ協奏曲、ネーフェが教材として用いたC.P.E.バッハの作品、そして《交響曲第1番》以前に作曲されたピアノ・ソナタやロマンスを取り上げ、若きベートーヴェンが交響曲作曲へと歩みを進める軌跡を描きます。

延原ならではの軽妙で深いトーク、そしてテレマン室内オーケストラが紡ぐ18世紀の響きとともに、ベートーヴェンの創作の原点に触れる至高のひとときをお楽しみください。





ベートーヴェン もっと身近に！もっと深く！
—— 恩師ネーフェとはどんな人物？

クリスティアン・ゴットロープ・ネーフェ（1748–1798）は、ドイツの作曲家・オルガニスト・宮廷音楽家。歌芝居「ジングシュピール」の作曲家として名を馳せる一方、少年期のベートーヴェンを導いた最初の本格的な師として知られています。

ネーフェはベートーヴェンにJ.S.バッハやC.P.E.バッハの作品を教材として与え、対位法やフーガの基礎を教えました。さらに、宮廷音楽家としての実務経験を積む機会を与えるなどして、後の大作曲家となるための確かな礎を築きました。

延原武春指揮 テレマン室内オーケストラ
Takeharu NOBUHARA, conductor Telemann Chamber Orchestra

18世紀音楽を専門とする指揮者・延原武春が1963年に創設。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。主な受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」（関西初）、「サントリー音楽賞」（関西初）等。

1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏（世界初）。2008年にはクラシカル楽器による「ベートーヴェン交響曲全曲＆荘厳ミサ曲」を連続公演。この公演が引き金となって延原はドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」を受章した。

1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンデイジをミュージック・アドヴァイザーとし、バロック楽器による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハフェスティバルinライプツィヒ2003」に出演し、C.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。2023年には協会創立60周年事業第300回定期演奏会で1829年のメンデルスゾーンによるバッハ「マタイ受難曲」蘇演を再現。その功績が認められ、令和5年度大阪文化祭賞を受賞。



フォルテピアノ：高田泰治
Taiji TAKATA, fortepiano

ドイツ在住。2003年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。2010年ＮＨＫ「クラシック倶楽部」にてモーツァルト作曲ピアノ協奏曲 第12番をフォルテピアノで好演し話題となる。2011年5月に「バッハ・アルヒーフ」（ライプツィヒ）の主催する定期演奏会に出演し好演。2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞受賞。令和2年度神戸市文化奨励賞受賞。
使用楽器：アントン・ワルター モデル



ヴァイオリン：浅井咲乃
Sakino ASAI, violin

テレマン室内オーケストラ、ソロコンサートマスター。2008年にヴァイオリン・ソリストとして登場し、ヴィヴァルディの「四季」全曲を見事に好演。2010年の日本テレマン協会・第195回定期演奏会における同曲の公演も「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」という高い評価を得ている。2025年にはバロック楽器によるCDアルバム「ヴィヴァルディ『四季』」を、2026年にはCDアルバム「クライスラー偽作＆編曲集 弦楽伴奏版」をリリース。平成30年度咲くやこの花賞（音楽部門）を受賞。

春のベートーヴェン・プロジェクト

大 KOBELCO大ホール

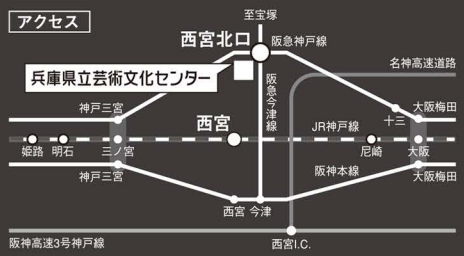
BEETHOVEN 200th ベートーヴェン 没後200年プロジェクト

4/29（木・祝）大 尾高忠明指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団
「田園」＆「運命」 11月発売

5/23（日）大 仲道郁代（ピアノ）
「ハンマークラヴィーア」 12月発売

6/5（土）大 ジョルディ・サヴァール指揮 ル・コンセール・デ・ナシオン
古楽器で聴く「運命」＆「英雄」 11月発売 Early Music Series 古楽の愉しみ

アクセス



◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ（連絡デッキで直結）
◎ＪＲ西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）
※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。